

# 自然体験ツアー商品化へ

三重大学生物資源学部

## 銚子川モニターツアー

三重大学生物資源学「キャンピング海山」部の学生が13、14の2日間、紀北町便ノ山の町営オートキャンプ場

をを訪れ、銚子川の自然体験アクティビティを生かした商品化に向



サイクリングで銚子川流域の豊かな自然を体感する三重大生（13日、紀北町木津の魚跳溪で）

けたモニターツアーを実施した。

町が銚子川流域魅力アップ推進事業の一環で、同大に委託して取り組む自然環境人材育成事業。モニターツアーは今年4月に続く2回目、今回はキャンピング海山の協力を受け、銚子川の閑散期の誘客を目的に開発中の自然体験観光ツアーの商品プログラムを実践した。

子川に変えよう」をコンセプトに、テントサウナやサイクリング、シーカヤック、ハイキングなど銚子川の魅力を体感する官民一体の自然体験プログラム。特に目玉のテントサウナはサウナ（80度前後）と銚子川を出入りして寒暖を繰り返すことで、血行を良くし自律神経を整える効果を実証しているという。学生らは2グループに分かれ、便石山ハイキングとツアー商品プログラムを2日間実践。学生らはサイクリングで魚跳溪付近の水をくみ、銚子川上流に設置したテントサウナを体験後、銚子川の水を浴びて煮沸消毒した

水を飲む「行程を確認し、銚子川の魅力を再認識した様子で商品開発に意欲を高めていた。

初日はキャンピング海山を運営するNPO法人ふるさと企画舎の田上至理事長から「銚子川の魅力」について講義を受け、自然環境保護に取り組む人材育成教育でテント設置や火おこしも体験してアウトドア技術の知識も習得した。

前回は参加した同学部海洋生物資源学科学科2年の田中祥希さん（19）は「銚子川を生かした自然体験観光は有望で商品化に向けためどは立っている。銚子川の認知度は高く、豊かな自然に人の魅力も売り出して商品価値高めれば必ず人を呼び込めると思う」と話していた。

学生の活動をサポートした田上理事長は「学生が目指す部分と地域が抱える課題を共有することで効果が期待できる。今後は安全管理の担保や災害時にも役立つアウトドア技術の習得、地域のルールやスキルを踏まえたプロインストラクターの育成も大切になる」と話している。